

報道関係者各位

ホスピタリティ業界の課題に対して業界をめざす学生が業界のリーダーへ提言
ホテル総支配人や業界の方など 24 名を審査員に迎え、第 32 回弁論大会を開催

専門学校日本ホテルスクール(東京都中野区 石塚勉校長)は、第 32 回弁論大会を 11 月 7 日(火)、なかの ZERO ホールで開催しました。ホテル総支配人、業界関係者、観光業界を代表するメディア関係者の方などの 24 名のゲスト審査員、弁士のご家族や友人 9 名、教職員 29 名、在校生約 300 名の聴衆を前に、総勢 17 名が参加した予選会を通過した日本語部門 5 名、英語部門 5 名、計 10 名の弁士が熱弁を振るいました。



日本語部門最優秀賞受賞 夜間部ホテル科 1 年小泉ほの香さん(神奈川県立上溝高校出身)(左)
英語部門最優秀賞受賞 昼間部英語専攻科 2 年天井咲希さん(東京都立翔陽高校出身)(右)

弁論大会は「表現力、語学力の向上」「同世代間の考え方・価値観の共有」などを目的として開始され、今回で 32 回目を迎えました。本大会は、学内レベルの大会としては類を見ない規模で、毎年、ホテル総支配人や業界企業トップの方などゲスト審査員を迎えて実施しています。本校は開校以来、「産学連携」を軸とし、ホテル・ブライダル企業を中心に企業と連携した実践教育を行っています。

訪日外国人旅行者数の本格的な回復や増加する中で、国内外の富裕層の取り込みを狙い、東京都内を中心にラグジュアリーホテルの開業が予定されています。一方で、帝国データバンクが実施した 2023 年 1 月の人手不足に対する企業の動向調査によると、「旅館・ホテル」は高い割合で推移しています。新規ホテルの開業と人手不足が重なり、宿泊業界内で人材の獲得競争が起こる中で人材を集めることは急務な課題の一つです。その他にも、持続可能な観光、ホスピタリティ業界の賃金水準、業界における SDGs、AI(人工知能)、DX(デジタルトランスフォーメーション)などさまざまな課題がある中で、今年の弁論大会は、「ホスピタリティ業界のアップデートに向けて」を論題としました。ホテル・ブライダル実習や日頃のアルバイトなどの体験を通して感じていることなどの体験談に留まらず、現在自身に取り組んでいること、

自身と社会との関わり、そして将来活躍の場であるホテルやブライダルの業界への提案から、自身の今後の目標や将来の夢など、予選会からさらに内容をまとめ、練習した成果を發揮し、堂々と伝えていました。



ホテル総支配人や業界企業のトップの方などがゲスト審査員と参加します

日本語部門最優秀賞は、夜間部ホテル科 1 年小泉ほの香さん(神奈川県立上溝高校出身)による、ホテルを魅力的に思う若者が減ってきていることが業界の人材不足の本当の原因であると示し、質の高いサービスを提供するというホテルの強みを伝え人材不足を解決するために“挨拶”が必要であることをテーマとした「人材不足の本当の原因」、優秀賞は昼間部ホテル科 2 年増井ほのかさん(千葉県立八千代東高校出身)による、実習先で障がい者の方と一緒に働いた経験からホテル業界でも障がい者雇用を積極的に取り入れていくべきである考えを示し、外出困難者である従業員が分身ロボットを自宅や病院から遠隔操作し接客サービスを提供するカフェの事例からホテルでの新たな働き方の導入を提案、すべての人が自分らしく社会参加することが大切であることを論じた「共に生きる社会を目指して」が選ばれました。

英語部門最優秀賞は、昼間部英語専攻科 2 年天井咲希さん(東京都立翔陽高校出身)による、ホスピタリティ業界のアップデートに向けて従業員同士が様々なお客様を想定し、どのような対応ができるかを考え共有する研修「カスタマーリレーションプログラム」のアイデアを提案。様々な背景を持つ人々の広がる時代であるからこそ、ホスピタリティを探究する意義があり、従業員同士でビジョンや体験の共有を通して仕事のやりがいも高めることができること伝えた「Our Own Hospitality(私たちのホスピタリティ)」、優秀賞は、夜間部ホテル科 2 年佐野緋咲さん(聖カピタニオ女子高等学校〔愛知〕出身)の美しく高級感のある雰囲気のあるホテルの表舞台と殺風景なバックヤードの比較から、ホテル業界における労働環境をアップデートする必要性を問い、ホスピタリティ業界の賃金水準の低さや人手不足の課題を解決するためにどのような褒美が求められているかを自身の幼少期に経験した褒美としてもらうキャンディーの存在感と照らし合わせて伝えた「The Candy for Us(私たちにとってのキャンディー)」が選ばれました。

そして、日本語部門、英語部門よりそれぞれ 3 名が努力賞を受賞しました。

<日本語部門・努力賞>

昼間部ブライダル科 2年 大橋美奈さん(千葉経済大学附属高校〔千葉〕出身)

「Rechargeー心と体の充電ー」

昼間部ホテル科 1年 花井友美さん(長野県飯田風越高校出身)

「第二の故郷」

夜間部ブライダル科 2年 林仁美さん(東京都立練馬高校出身)

「デジタル・トランスフォーメーション」

<英語部門・努力賞>

昼間部ホテル科 2年 篠崎莉緒さん(アレセア湘南高校〔神奈川〕出身)

「Sustainable Hotel Concept (サステイナブルホテルコンセプト)」

昼間部英語専攻科 2年 戸波碧さん(千葉県立安房高校出身)

「microaggression (マイクロアグレッション)」

昼間部ホテル科 2年 岡田桃佳さん(志学館高等部〔千葉〕出身)

「Heartfelt communication with visitors (心ある会話)」

日本語部門最優秀賞受賞者には、株式会社目黒雅叙園 ホテル雅叙園東京 執行役員 総支配人 森木岳明様より朝食付宿泊券、ヒルトン東京ベイ様より宿泊券、株式会社森ビルホスピタリティコーポレーション 執行役員 クラブ事業部担当 木頃由紀様よりディナーペア招待券、パーク ハイアット 東京様よりホリデーランチペア招待券、株式会社オータパブリケーションズ 執行役員 HOTERES マネージングディレクター 岩本大輝様より週刊ホテルレストラン定期購読 1年分が贈られました。英語部門最優秀賞受賞者には、アコージャパン株式会社/プルマン東京田町 代表取締役兼総支配人 ディーン・ダニエルズ様より、スーパーアスイート朝食付 2泊宿泊券、横浜ベイホテル東急 執行役員総支配人 北村裕二様より宿泊券、ヒルトン東京ホテルマネージャー トーン エンバース様よりディナー招待券、アマン東京 副総支配人 鈴木孝典様よりアフタヌーンティー招待券、八芳園様よりランチコースペア招待券が贈られました。なお、ディーン ダニエルズ様は当日ご欠席だったため、プルマン東京田町の宿泊券はスイスホテル南海大阪総支配人 シェーン エドワーズ様より受賞者に手渡されました。



受賞者に協賛いただきました企業の皆様よりホテル宿泊券やディナー招待券などが贈られました

そして、日本語部門優秀賞受賞者には、ザ・キャピトルホテル 東急 副総支配人 小島恭之様より朝食付宿泊券、英語部門優秀賞受賞者には、ザ・ペニンシュラ東京 執行役員 セールス&マーケティング本部長 ピーター エドホルム様より朝食付宿泊券が贈られました。また、両賞受賞者に、ファーイーストビレッジホテル横浜・ファーイーストビレッジホテル東京浅草 日本エリア統括ゼネラルマネージャー マーティン フルック様より朝食付宿泊券、ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜 総支配人 阿部泰年様よりディナービュッフェ招待券が贈られました。

なお、努力賞を受賞した 6 名の弁士にもランチ・ディナー券やホテル宿泊券などの副賞を企業の皆様より提供いただき、それぞれの弁士に贈られました。その後、審査委員特別賞として、英語部門出場の佐野緋咲さんに、株式会社柴田書店 取締役編集部部长兼企画部部长 阿部貞三様より月刊ホテル旅館定期購読 1 年分、日本語部門出場の大橋美奈さんにザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜 総支配人 阿部泰年様より宿泊券、花井友美さんに、東京エディション虎ノ門・東京エディション銀座 統括総支配人 アンシュル カウール様より朝食付宿泊券が贈られました。審査員特別賞を受賞した大橋さんによるホテルで働くうえで気持ちを切り替えられる場所があればモチベーションも上がるという考えに対し、従業員専用のトイレがその場所に成り得ることをテーマにした「Rechargeー心と体の充電ー」に対して、プレゼンターのザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜総支配人 阿部泰年様より、「ホテルに戻ったら、従業員専用のトイレを気分を変えられる空間とするために考えを取り入れたいと思う」とメッセージを送られている姿が印象的でした。協賛いただきました企業の皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。

審査結果発表、表彰式の後、ゲスト審査員としてご出席いただきました、東京エディション虎ノ門・東京エディション銀座 統括総支配人 アンシュル カウール様より審査員を代表して弁論大会を素晴らしいスピーチであったと総評いただくとともに、ホテル・ブライダル業界での活躍をめざす本校の学生に対して、これからのプロフェッショナルなキャリアを積むために“好奇心旺盛でいて欲しい”、“手本となる存在を見つけて欲しい”、“素敵にいて欲しい”、“一瞬一瞬を大事にして欲しい”の「大事にして欲しい4つのこと」をメッセージとして共有いただきました。



第 32 回弁論大会 10 名の弁士と業界を代表する審査員の皆様

専門学校日本ホテルスクールは 1972 年開校以来、14,000 名以上の卒業生を輩出してきました。ホテル・ブライダル分野における人材育成において、ホテル単科の専門学校としては、日本で最大級、日本を代表する教育機関の一つとして、完全就職や希望の進路実現に向け、蓄積したノウハウを注いで学生を支援しております。32 回目を迎えた弁論大会は、国際化の時代に向けて、これまでと同様、ホテルの総支配人や業界企業のトップの方々をゲスト審査員として迎え、産学連携のもとで行われた学校行事の一つです。

以上

別紙添付

- ゲスト審査員一覧 (PR23-14TheJapanHotelSchool_ゲスト審査員一覧.pdf)
- ご協賛企業様一覧 (PR23-14TheJapanHotelSchool_ご協賛企業様一覧.pdf)

■この件に関するお問い合わせ

学校法人日本ホテル学院 専門学校日本ホテルスクール
教育部 佐藤 広報部(窓口) 北條
TEL: 03-3362-5001 FAX: 03-3360-6177
URL: <https://www.jhs.ac.jp>

JHSPR23-14